

『食の都庄内』旬だより

【庄内砂丘メロン】



(夏に旬を迎える庄内砂丘メロン)



(砂丘地で栽培される庄内砂丘メロン)

1 庄内砂丘で栽培されているメロン

- 本県では、収穫の最盛期が7月であること及び数字の「6」がメロンの形に似ていることから、7月6日を「庄内砂丘メロンの日」と定めています。
- 庄内砂丘メロンは、鶴岡市西郷地区、酒田市浜中地区・袖浦地区、遊佐町西遊佐地区の砂丘地域で主に栽培されており、「アンデス」を始めとする緑肉品種のほか、赤肉品種の「夏のクインシー」なども栽培されています。

2 夏メロン日本一の「庄内砂丘メロン」

- 庄内砂丘は、水はけの良い土壌と豊富な地下水、日中の強い日差しと夜の涼しさが生み出す寒暖差など、おいしいメロンが育つ条件が揃っています。
- 特に出荷盛期となる7月から8月の東京都中央卸売市場における取扱量（令和5年：約1,280 t）及び取扱額（令和5年：約5億9,000万円）が日本一となるなど、庄内砂丘メロンが夏のメロン市場を牽引しています。

<「庄内砂丘メロン」の歴史>

- 栽培の歴史は古く、記録によれば大正7年まで遡りますが、本格的にスタートしたのは、昭和6年の「七窪メロン研究会」の設立後とされています。
- 生産規模が拡大したのは昭和42年頃で、当時の人気品種「プリンスメロン」の生産が始まると、全国的にその品質が評価され、メロン産地としての地位を確かなものとなりました。
- 庄内砂丘メロンは、過去から現在に至るまで生産者の方の情熱と手間暇を惜しまない栽培によって支えられています。



(昭和8年 七窪メロン研究会)